

## 「第 91 回東京都新型コロナウイルス感染症モニタリング会議」

令和 4 年 6 月 30 日（木）15 時 00 分  
都庁第一本庁舎 7 階 特別会議室（庁議室）

### 【危機管理監】

それでは第 91 回東京都新型コロナウイルス感染症モニタリング会議を始めます。

本日も感染症の専門家の先生方にご出席をいただいております。

東京都新型コロナウイルス感染症医療体制戦略ボードのメンバーで、東京都医師会副会長の猪口先生。国立国際医療研究センター国際感染症センター長の大曲先生。

東京 iCDC 専門家ボードから、座長の賀来先生。東京都医学総合研究所社会健康医学研究センター長の西田先生。

そして、医療体制戦略監の上田先生にご出席いただいております。よろしくお願ひいたします。

なお、10 名の方につきましては Web での参加となっております。

それでは、早速ですけれども「感染状況・医療提供体制の分析」のうち、「感染状況」について大曲先生お願ひいたします。

### 【大曲先生】

はい、それではご報告をいたします。

「感染状況」でございますが、色を「オレンジ」としております。「感染が拡大している」といたしました。

新規陽性者数の増加比であります。2 週間連続して 100%を上回って上昇をしております。感染が再拡大しております。幅広い世代に対して、3 回目のワクチン接種を促進するとともに、高齢者や重症化リスクが高い方への 4 回目のワクチンの接種を加速する必要がある、といたしました。

それでは詳細についてご報告をいたします。

①の新規陽性者数であります。

この 7 日間平均であります。前回の 1 日当たり約 1,698 人から、今回は 1 日当たり約 2,337 人と大きく増加をしております。増加比をとりますと約 138%であります。

7 日間平均であります。6 月 29 日の時点で 1 日当たり約 2,337 人と、十分に下がり切らないまま増加に転じました。増加比であります。前々回の 86.4%から、前回は 110.1%、今回は 137.7%と、2 週間連続して 100%を上回って上昇しております。感染が再拡大をしております。

職場や教室など、人の集まる屋内では、引き続き換気を励行して、3 密の回避、人と人と

の距離の確保、不織布マスクを場面に応じて適切に着用すること、手洗いなどの手指衛生、状況に応じた環境の清拭・消毒など、基本的な感染防止対策を徹底して、新規陽性者数の増加をできる限り抑制していく必要があります。

変異株ではありますが、6月29日の時点での速報値で、オミクロン株の亜系統として、「BA.2系統疑い」、「BA.4系統疑い」、「BA.5系統疑い」、「BA.2.12.1系統疑い」、これが6月14日から6月20日の週ではそれぞれ67.1%、1.4%、25.1%、6.4%検出されております。特に、より感染性が高いとされる「BA.5系統疑い」などの割合が増加をしており、今後の変異株の動向を注視する必要があります。

熱中症の防止の観点から、屋外では一律にマスクを着用する必要はないものの、人との距離を2メートル以上確保ができず、会話をするような場合には、マスクの着用が推奨されます。

ワクチンの東京都での接種状況でございますが、6月28日の時点で3回目のワクチンの接種状況は、やや増加をしております。全人口では59.8%、12歳以上では65.9%、65歳以上では88.2%となりました。4回目のワクチンの接種につきましては、「60歳以上の方」、または「18歳以上で基礎疾患を有する方・その他重症化リスクが高いと医師が認める方」を対象として、区市町村、そして都の大規模接種会場で実施をしております。幅広い世代に対して、3回目のワクチン接種を促進するとともに、高齢者施設の入所者を含めた高齢者等への4回目のワクチンの接種を加速する必要があります。

ワクチン接種による重症化予防と死亡率の低下の効果は、オミクロン株に対しても期待できます。また、ワクチンを接種した方においては、症状が遷延するリスクが低いとの報告もあります。若い世代を含めた幅広い世代に対して、よりワクチン接種を強力に推進する必要があります。

都内でも5～11歳のワクチン接種を実施しております。特に基礎疾患を有するなど、重症化するリスクが高い小児には、接種の機会を提供することが望ましいとされております。

また、先週、都内の小学校において、インフルエンザによる臨時休業措置、いわゆる学年閉鎖がとられました。インフルエンザの地域流行に留意をしつつ、新型コロナウイルス感染症との同時流行の可能性に備えて、今後の対応を早急に検討しておく必要があります。

次、①-2に移ります。

年代別の構成比でございますが、20代が20.5%と最も高く、次いで30代が18.1%とあります。30代以下の割合が62.5%と高い値で推移する一方ではあるのですが、50代以上の割合が、先週の18.7%から、今週の21.5%へと上昇しております。これまでの感染の拡大時の状況では、まず若年層に感染が広がって、その後、中高年層に波及しております。引き続き警戒が必要でございます。また、保育所・幼稚園、学校生活及び職場における感染防止対策の徹底が求められます。

次、①-3に移ります。

65歳以上の高齢者数でございますけれども、前週の729人から、今週は1,089人となりま

した。割合は7.6%でございます。

この数値の7日間平均であります。前回の1日当たり約121人から、今回1日当たり約164人と増加をしております。

このように、重症化リスクの高い65歳以上の新規陽性者数の7日間平均が、2週間連続をして増加をしております。今後の動向に注意が必要でございます。

次、①-5に移ります。

感染経路が明らかだった新規陽性者の感染経路別の割合であります。同居する人からの感染が68.0%と最も多いという状況でございました。次いで、施設及び通所介護の施設での感染が15.5%、職場での感染が7.0%でありました。

また、1月3日から6月19日までに、都に報告があった新規の集団発生事例であります。高齢者施設・保育所等の福祉施設で2,197件、幼稚園・学校等の学校・教育施設で730件、医療機関が230件でございました。

少しでも体調に異変を感じる場合には、外出、人との接触、登園・登校、そして出勤を控え、発熱や咳、痰、咽頭痛、倦怠感などの症状がある場合には、医療機関を受診するよう周知をする必要があります。

今週も、10代以下では、施設で感染した割合が26.3%と高く、特に10歳未満になりますと、27.5%と高い値で推移をしております。施設内感染の発生によって、保護者が欠勤せざるを得ないことも、社会機能に影響を与えております。ですので、保育所・幼稚園、そして学校での感染拡大に警戒が必要であります。

また、会食であります。会食による感染が明らかだった新規陽性者数は、前々週の104人から、前週が122人、今回は173人と、2週間連続して増加をしております。会食は換気の良い環境で、できる限り短時間、少人数として、会話時はマスクを着用し、大声での会話は控えることを繰り返し啓発する必要があります。

職場でありますが、職場での感染を防止するために、事業者は、従業員が体調不良の場合に、受診や休暇の取得を積極的に勧めるとともに、テレワーク、オンライン会議、時差通勤の推進、換気の励行、3密を回避する環境整備等の推進と、基本的な感染防止対策を徹底することが引き続き求められます。

①-6に移ります。

今週の新規陽性者が14,352人でありまして、無症状の方が755人。割合は前週が5.6%、今回は5.3%でありました。今週も、症状が出てから検査を受けて、そして陽性と判明した方の割合が高いという状況です。

①-7に移ります。

保健所別の届出数であります。多い順に見ますと、世田谷で995人と最も多く、次いで多摩府中が849人、新宿区が733人、大田区が702人、江東区が638人でありました。

保健所では、オミクロン株の特性を踏まえて、濃厚接触者の特定、積極的疫学調査を効果的・効率的に実施していく必要がございます。

次、①-8に移って参ります。

地図で見て参ります。今週ですが、都内の保健所のうち、約42%にあたる13の保健所で、それぞれ500人を超える新規の陽性者数が報告をされております。

①-9に移ります。

これを人口10万人当たりで補正しますと、このようなかたちになります。地図でいきましたと、中心から区部のところが紫色というところがございます。

次、②に移ります。#7119における発熱等の相談件数であります。

この7日間平均でありますけれども、前回の1日当たり63.1件から、今回は1日当たり73.0件に増加をしております。

都の発熱相談センターにおける相談件数の7日間平均でございますが、前回は1日当たり約1,105件、今回は1日当たり約1,306件に増加をしております。

このように、発熱等相談件数の7日間平均が増加し、高い値で推移をしております。引き続き#7119と発熱相談センターの連携を強化するとともに、動向を注視する必要がございます。

③です。新規陽性者における接触歴等不明者数と増加比であります。

この不明者数であります。7日間平均で、前回の1日当たり約1,033人から、今回は1日当たり1,482人と、大きく増加をしております。

今週の接触歴等不明者数の合計が8,893人でありまして、年代別に見ますと、20代が2,238人と最も多く、次いで10代以下が1,758人、30代が1,717人でございます。

このように、接触歴等不明者数が依然として高い値で推移をしております。接触歴等不明者の周囲には陽性者が潜在していることに注意が必要でございます。

次、③-2に移ります。

この数値の増加比を見ますと、約144%でありました。この数値ですが、前回の約109%から100%を超える水準でさらに上昇しております。今後の動向に十分警戒する必要がございます。

感染経路が追えない第三者からの潜在的な感染を防ぐために、基本的な感染防止対策を引き続き徹底することが必要でございます。

次、③-3に移ります。

新規陽性者に対する接触歴等不明者の割合でございますが、前週の約61%から、今回は約62%となっております。年代別に見ていきますと、20代が約76%と高い値となっております。

80代を除くすべての世代で、接触歴等不明者の割合が50%を超えております。特に20代では約76%と、行動が活発な世代で高い割合となっております。

私からは以上でございます。

【危機管理監】

ありがとうございました。

続いて、「医療提供体制」について猪口先生お願いいたします。

#### 【猪口先生】

医療提供体制、総括コメントはですね、色は「黄色」のままです。「通常の医療との両立が可能な状況である」。

新たに入院した患者数は、2週間連続して増加しております。熱中症による搬送件数の増加もあり、東京ルールの適用件数が増加しております。今後の動向を警戒する必要がある、といたしました。

個別のコメントに移ります。

まず、オミクロン株の特性に対応した医療提供体制の分析について述べます。

(1)、新型コロナウイルス感染症のために確保した病床使用率は、6月22日時点の12.1%から、6月29日時点で16.9%に上昇いたしました。

(2)、オミクロン株の特性を踏まえた重症者用病床使用率は、2.1%から3.6%に上昇いたしました。

(3)、入院患者のうち酸素投与が必要な方の割合は、11.1%から9.5%です。

(4)、救命救急センター内の重症者用病床使用率は、68.7%から72.8%となっております。

(5)、救急医療の東京ルールの適用件数については85.6件と、引き続き高い水準で推移しております。

では、④検査の陽性率です。

7日間平均のPCR検査等の陽性率は、前回の10.9%から14.4%となり、また、7日間平均のPCR検査等の人数は、前回の約9,844人から約10,354人となっております。

2週間連続して横ばいであった陽性率は、今回14.4%に上昇をし、依然として高い水準で推移しております。無症状や軽症で検査未実施の感染者が多数潜在している状況が危惧されます。都では、感染リスクが高い環境にあるなど、感染不安を感じる無症状の都民の方を対象にした無料検査を実施しております。

⑤です。

救急医療の東京ルールの適用件数の7日間平均が、前回の71.7件から、85.6件に増加いたしました。

東京消防庁によりますと、熱中症搬送件数は、令和3年度の場合、6月の累計は約250件でありました。令和4年度、今年ですね、6月27日現在で、6月の累計はすでに588件と、昨年の倍以上となっております。

特に、昨日6月29日は、1日当たりの救急出動件数約3,000件のうち、熱中症搬送件数が約200件であるなど、救急医療提供体制を圧迫しております。

このように、熱中症による搬送件数の増加もあり、東京ルールの適用件数が増加しており、動向を注視する必要があります。

では、その次、入院患者数です。⑥-1。

6月29日時点の入院患者数は、前回の614人から857人に大きく増加いたしました。

今週、新たに入院した患者は、前週の378人から579人に大きく増加しております。また、入院率は4.0%でありました。

都は、各医療機関に要請する病床確保レベルをレベル1、5,000床としており、6月29日時点での確保病床数は5,047床、稼働病床数4,785床であります。

陽性者以外にも、疑い患者について、都内全域で約163人/日を受け入れております。

新たに入院した患者数は、2週間連続して増加しており、今後の動向を警戒する必要があります。

入院調整本部への調整依頼件数は、6月29日時点で56件となっております。

⑥-2です。

6月29日時点で、入院患者数の年代別割合は80代が最も多く、全体の約26%を占め、次いで、70代が約18%でありました。

入院患者数に占める60代以上の割合は約67%と、引き続き高い値のまま推移しており、高齢者を受け入れることが可能な病床や、軽症・無症状の高齢者のための臨時の医療施設の運用が重要であります。

⑥-3です。

検査陽性者の全療養者数は、前回の17,212人から、6月29日時点で22,164人に増加いたしました。内訳は、入院患者857人、宿泊療養者1,666人、自宅療養者13,831人、入院・療養等調整中が5,810人で、すべて増加しております。

全療養者に占める入院患者の割合は約4%、宿泊療養者の割合は8%でした。自宅療養者と入院・療養等調整中の感染者が約88%であります。

都は、32か所、12,253室の宿泊療養施設を確保し、東京都医師会・東京都病院協会の協力を得て運営しております。6月1日から稼働レベルを1とし、21か所、8,990室、受入可能数6,190室で運用しております。

⑦重症患者数です。

重症患者数は、前回の0人から、6月29日時点で5人に増加いたしました。また、重症患者のうち、ECMOを使用している患者はいらっしゃいませんでした。

今週、新たに人工呼吸器を装着した患者は5人、人工呼吸器から離脱した患者はいませんでした。人工呼吸器使用中に死亡した患者が2人です。

重症患者に準ずる患者は51人。内訳は、ネーザルハイフローによる呼吸管理を受けている患者が6人、人工呼吸器等による治療を要する可能性の高い患者が43人、離脱後の不安定な患者が2人です。

オミクロン株の特性を踏まえた重症者用病床使用率は3.6%と低い割合で推移しております。病床使用率などに応じて、柔軟な病床運用を行う必要があります。

⑦-2です。

年代別内訳は50代が1人、70代が3人、80代が1人。性別はすべて男性であります。  
今週報告された死亡者数は7人。40代が1人、50代が1人、60代が1人、70代が1人、80代が3人でありました。6月29日時点で、累計の死亡者数は4,573人となっております。

高齢者のみならず、肥満、喫煙歴のある人は、若年であっても重症化するリスクが高くあります。あらゆる年代が感染により、重症化するリスクを有していることを啓発する必要があります。

⑦-3です。

今週新たに人工呼吸器を装着した患者は5人であり、新規重症患者数の7日間平均は、前回0.0人から、6月29日時点で0.4人となっております。

私の方は以上であります。

#### 【危機管理監】

ありがとうございました。

分析シートの内容につきまして、ご質問等ございますでしょうか。

よろしいでしょうか。

それでは次に、「感染拡大を受けた医療提供体制」について、上田医療体制戦略監お願いいたします。

#### 【医療体制戦略監】

感染拡大を受けた医療提供体制について一言申し上げます。資料は特にございませぬ。

大曲先生からご説明がありましたように、新規陽性者数が継続的に増加しており、感染が拡大している状況にあります。

一方で、猪口先生からご説明がありましたように、医療提供体制は、通常医療との両立が可能な状況にあります。しかし、新規陽性者の数が十分下がり切らないまま増加に転じており、今後、医療への負荷の増大も懸念されます。

そのため、医療提供体制への負荷をしっかりとモニタリングしながら、まずは検査体制や自宅療養支援体制を、第6波のピーク時と同じ水準に強化します。

また、重症化しやすい高齢者対策を強化して参ります。さらに、高齢者の4回目ワクチン接種、そして若者の3回目接種を着実に進めて参ります。

こうした取組を先手先手で講じることにより、感染の再拡大に万全の備えを講じて参ります。

以上です。

#### 【危機管理監】

ありがとうございました。

ただいまの上田先生のご説明にご質問等ございますでしょうか。

よろしいでしょうか。

それでは次に、「夏の感染拡大時における医療提供体制」について、福祉保健局長お願いいたします。

#### 【福祉保健局長】

私からは夏の感染拡大に備えました医療提供体制について、具体的な点についてご報告をいたします。

まず、感染状況及び今後の感染動向の見込みに関する専門家の先生方からのご意見を取りまとめたものでございます。

感染拡大の要因といたしましては、主に3点、1つ目は免疫の減衰、2つ目はBA.5などの亜系統への置き換わり、3つ目に行動の活発化が指摘されているところでございます。

今後の感染動向の見込みでございますが、夏は陽性者が増える傾向にあり、梅雨明け・3連休・お盆の影響、免疫の減衰などによりまして、感染の拡大の恐れがあるところのご指摘がございます。

先ほど、上田医療体制戦略監からお話ございましたが、医療提供体制について、検査体制や自宅療養体制、高齢者対策の強化など、先手先手で取り組むことにより、感染の再拡大に万全の備えを講じていくことが必要であるところのご指摘ございました。

こういった点も踏まえまして、重点的に取り組んでいく点を3つにまとめてございます。

まず、第一として、感染の状況を踏まえて先手先手で対策を講じていくことでございます。

iCDCなど専門家を含めました健康危機管理体制や、ウイルスの特性等にに応じた監視体制を強化いたします。具体的には、東京iCDCに新たに所長ポストを設置するほか、全般的な医療提供体制の助言の仕組みなど、健康危機管理体制を強化いたします。

また、検査体制や自宅療養支援体制などは第6波ピーク時の水準まで引き上げます。病床につきましては、熱中症など通常医療への対応をしっかりと行いながら、今後、病床使用率20%~30%を目安に、専門家の意見や、現場の状況を詳細に把握し、適切に対応して参ります。

第二に、高齢者対策の強化でございます。

高齢者施設等に対しましては、施設に直接出向き、クラスターを食い止める即応支援チームが積極的に支援して参ります。

また、介護度の高い高齢者等を受入れるための臨時の医療施設を、7月中に100床整備いたします。

引き続き高齢者が安心して療養できるよう、体制を強化して参ります。

第三に、ワクチン接種の推進です。

世代を問わず3回目のワクチン接種を加速して参ります。

まず、都や区市が行っている利便性の高い接種会場の周知を図ることで、特に接種率が低

い若者の接種を促進して参ります。

また、都が運営する大規模接種会場において、7月4日からファイザーやノババックスの予約なしの接種を開始いたします。

また、ワクチンバスを大学のみならず、職場にも派遣し、特に接種率の低い若い世代への接種を促進して参ります。

次に、重症化リスクの高い高齢者や基礎疾患のある方への4回目接種の加速でございます。

高齢者施設などの接種計画を、区市町村と協力して推進するとともに、ワクチンバスの派遣によって、施設入所者に対する接種を確実に促進して参ります。

また、基礎疾患を持つ方等へ対して、医療機関から接種の働きかけをお願いするとともに、高齢者団体などにも働きかけをして参ります。

感染の連鎖を断ち切り、重症化予防にも資するワクチン接種を引き続き推進して参ります。

次ページ以降、4枚にわたりまして、取組の詳細、この中で主な事項は赤字で記載しております。

また、健康危機管理体制について、最後の紙に詳細に記載してございますので、後程ご覧いただければと存じます。

私からは以上でございます。

#### 【危機管理監】

ありがとうございました。

ただいまの報告内容について、ご質問等ございますでしょうか。

それでは、東京iCDCからご報告をいただきます。

まず、「都内主要繁華街における滞留人口のモニタリング」につきまして、西田先生お願いいたします。

#### 【西田先生】

はい。それでは直近の夜間滞留人口の状況につきまして、ご報告申し上げます。

次のスライドお願いいたします。

レジャー目の夜間滞留人口は、先週から増加に転じており、昨年末の高い水準に徐々に近づきつつあります。それに伴って実効再生産数も急激に上昇しております。

熱中症対策にも十分に留意をしつつ、引き続き部屋の換気など、基本的な感染対策を徹底していただくとともに、ワクチン接種をさらに推進し、急激な感染拡大を防いでいくことが重要と思われまます。

それでは個別のデータを見ながら、補足の説明をさせていただきます。

次のスライドお願いいたします。

都内の主要繁華街の夜間滞留人口は、ゴールデンウィーク明け以降、梅雨の影響もあって、ほぼ横ばいで推移しておりましたが、先週から顕著に増加し始めており、徐々に昨年末の高い水準に近づきつつあります。

次のスライドをお願いします。

こちらは20時～22時、22時～24時の夜間滞留人口と実効再生産数の推移を示したグラフです。

6月の第2週以降、実効再生産数が増加に転じておりますが、ここに来てBA.5等への置き換えりや夜間滞留人口の増加等に伴って、実効再生産数はさらに上昇してきております。

次のスライドをお願いいたします。

こちらは、ハイリスクな深夜帯の滞留人口の年齢階層別の推移を示したグラフです。

こちら見ますと、6月の第2週目以降、若年層並びに中高年層の滞留人口も増加してきていることがわかります。若年層のみならず、中高年層の深夜帯の活動も顕著に増えてきていることから、今後広い年齢層での感染拡大というものが懸念されます。

次のスライドをお願いいたします。

こちらはコロナ前とコロナ後の滞留人口の通年推移を比較したものです。

赤色の2022年の直近のところをご覧くださいますと、以前、コロナ前に比べると、37%程度低いところを推移しております。

ただ、すでに感染者数が増え始めてきておりますので、ここから急激かつ大幅にハイリスクな接触機会が増えていきますと、さらに感染状況が悪化していく可能性が十分にあると思われれます。

次のスライドをお願いします。

こちらは、昨晚までの日別推移を示したグラフです。

この数日の感染者数の増加に伴うアナウンス効果等の影響もあってか、直近のところは、滞留人口の増加が止まっているように見えます。

猛暑日が続く中で、熱中症対策にも十分留意しつつ、引き続き部屋の換気など、基本的な感染対策を徹底していただくとともに、ワクチン接種をさらに推進し急激な感染拡大を防いでいくことが重要と思われれます。

私の方は以上でございます。

#### 【危機管理監】

ありがとうございました。

ただいまの西田先生のご説明について、ご質問等ございますでしょうか。

よろしいでしょうか。

それでは次に、「総括コメント」及び「変異株PCR検査」について賀来先生お願いいたします。

## 【賀来先生】

はい。まず分析報告、熱中症対策、夏の感染拡大時における医療提供体制、繁華街滞留人口モニタリングについてコメントをさせていただき、最後に、変異株について報告をさせていただきます。

まず分析報告へのコメントです。

ただいま、大曲先生、猪口先生より、感染状況・医療提供体制についてのご発言がございました。

感染状況については、新規陽性者数の増加比が2週間連続して100%を上回って上昇しており、感染が再拡大しているとのことで、黄色から一段階上がりオレンジになったとのコメントがあり、また、医療提供体制については、新たな入院患者数が2週間連続で増加し、熱中症による搬送件数の増加もあり、東京ルールの適用件数が増加しているとのコメントがありました。

引き続き、今後の動向を警戒するとともに、幅広い世代に対する3回目のワクチン接種、高齢者、重症化リスクの高い方への4回目のワクチン接種を加速する必要があり、新規陽性者数、重症化率なども総合的に考慮に入れ、引き続き、基本的な感染症対策の継続、医療提供体制、療養体制の充実を図っていく必要があるかと思われま。

また、熱中症対策についても、一言コメントをさせていただきます。

スライドをご覧ください。

こちらは、東京都が作成している熱中症予防を啓発するリーフレットです。

大曲先生から感染が再拡大していること、猪口先生から熱中症による搬送件数が増えているとのお話がありました。

新規陽性者数が増加していますが、このところ、暑い日が続いており、本日は、今年初めて東京都に熱中症警戒アラートが出ているなど、熱中症のリスクが非常に高まっています。

暑さを避ける、こまめに水分を補給する、大量に汗をかいたときは塩分をとる、エアコンを適切に使用するなどで、熱中症対策を十分に行いましょう。マスクは、屋外で人との距離が確保できているとき、会話がほとんどない時など、必要のない場面では、熱中症を防ぐために、外すようにしてください。

また、高齢者の熱中症は、半数以上が自宅で発生しているため、室内であっても、熱中症には十分な注意が必要です。高齢者やお子様は特に気をつけていただきたいと思います。

ぜひ、このようなリーフレットも参考にしながら、熱中症予防にも取り組んでいただきたいと思います。

続きまして、夏の感染拡大時における医療提供体制にコメントをさせていただきます。

夏の感染拡大を見据えて、上田先生、また東京都から医療提供体制についてご報告がありました。

新規陽性者数の増加を踏まえ、医療提供体制を第6波のピーク時と同じ水準に強化すること。また、重症化リスクの高い高齢者への対策を強化すること。ワクチンの3回目接種の

加速化、高齢者、障害者施設入所者への確実な4回目接種など、このような取組を、先手先手で講じることにより、感染の再拡大に万全の備えでいくことは大変に重要であると考えます。

続きまして、西田先生の繁華街滞留人口モニタリングのコメントをさせていただきます。

西田先生から、夜間滞留人口は先週から増加に転じており、昨年末の高い水準に近づきつつあること。また、実効再生産数も上昇しているとのこと。

熱中症対策にも留意しつつ、基本的な感染対策を徹底するとともに、ワクチン接種を積極的に進めていくことが重要かと考えます。

続きまして、変異株について報告をさせていただきます。

こちらのスライドは、過去1年間のゲノム解析結果の推移です。

現時点での解析結果では、6月におけるBA.2系統の占める割合が93.6%、オミクロン株の亜系統であるBA.2.12.1系統が3.7%、BA.5系統が2.6%となっております。

また、都内で初めてBA.4系統が確認されまして、この比率が0.2%となっております。

次のスライドをお願いします。

こちらのスライドは、先ほどのグラフの内訳です。ゲノム解析の結果、都内ではこれまでBA.2.12.1系統が70件、BA.5系統が37件、BA.1系統とBA.2系統の組換え体が14件確認されました。

また、先ほどご説明いたしました通り、都内で初めて、BA.4系統が2件確認されております。

次のスライドをお願いします。

こちらは、BA.2系統のほか、BA.2.12.1系統やBA.4系統、BA.5系統にも対応した、東京都健康安全研究センターにおける変異株PCR検査の結果です。

判定不能分を除いたBA.2系統が占める割合は、6月14日の週で67.1%となっております。

次のスライドをお願いします。

こちらのスライドは、変異株の置き換わりの推移を比較したグラフです。

都内における感染の主体は、引き続きBA.2系統であるものの、BA.5系統が25.1%、BA.2.12.1系統が6.4%と増加しており、BA.2系統の占める割合は減少してきています。

東京iCDCのゲノム解析チームでは、引き続き新たな変異株の動向を監視していくとともに、状況を注視して参りたいと思います。

次のスライドをお願いします。

このスライドは、参考にお示ししております。説明については省略いたします。

私からは以上です。

#### 【危機管理監】

ありがとうございました。

賀来先生のご説明についてご質問等ございますでしょうか。

よろしいでしょうか。

それでは最後に、会のまとめといたしまして、知事からご発言をお願いいたします。

#### 【知事】

はい。お暑い中、猪口先生、大曲先生、賀来先生、そして西田先生、上田先生、急遽お集まりいただきました。誠にありがとうございます。

感染状況、「黄色」から「オレンジ」へと上昇しております。

新規の陽性者数の増加比が 2 週間連続して 100%上回っており、そして感染は再拡大しているのご報告であります。

まずは、感染拡大防止・重症化予防のためのワクチン接種の推進をいたします。

また、検査体制や、自宅での療養支援体制、高齢者の方への医療提供体制の強化など、先手先手で対策を講じて参ります。

猪口先生からご説明ありました、熱中症による搬送件数がですね、急増している、増加しております。急激に厳しい暑さでございまして、都民の皆様には、適切な冷房の活用と、それから水分の補給、これにお気をつけいただいて、熱中症に十分注意するように、情報発信をする必要がございます。

そして、今後の感染再拡大に備えて、専門家を含めました健康危機管理体制をさらに強化をいたします。そのために、明日から、7月1日からですが、新たに、このすでに設けてあります東京 iCDC に所長ポストを設置をいたしまして、これまで東京 iCDC の専門家ボードで座長をお務めいただき、ご尽力いただいて参りました、賀来先生にご就任をいただきます。どうぞよろしくをお願いいたします。

ご就任に当たりまして、一言、賀来先生お願いいたします。

#### 【賀来先生】

ありがとうございます。明日7月1日付けで、東京 iCDC の所長を拝命いたします、賀来でございます。

これからも全力でご支援させていただきたいと思っております。何卒よろしく申し上げます。

COVID-19 の夏の感染拡大の備えや、秋冬のインフルエンザの同時流行も見据え、感染症に強い東京をつくるための体制強化が必要であると考えます。

医療体制戦略監の上田先生をはじめ、関係機関の皆様方と連携し、専門家ボード、タスクフォース、これは約 80 名の、各領域の専門家の先生で構成されておりますが、その東京 iCDC の専門家ボード、タスクフォースの皆様方の情報の解析、あるいは科学的な知見、あるいはエキスパートオピニオンなどで、都知事を補佐させていただき、また、福祉保健局に対して助言・提言を行って参りたいと思っております。

今後とも、感染症に強い東京の構築にお役に立てますよう、全力で頑張りたいと思っております。どうかよろしくをお願いいたします。

**【知事】**

ありがとうございます。

そして今、お話にもありましたように、この新型コロナの感染症にかかります、全般的な医療提供体制の助言を行うための、医療体制戦略監を設けておりますが、こちらは引き続き上田先生に担っていただきたいと存じます。

どうぞ改めて、一言お願いできますでしょうか。

**【医療体制戦略監】**

上田でございます。

昨年12月に着任以来、賀来先生をはじめとする東京iCDCの皆さん、そして、猪口先生、大曲先生をはじめとする医療体制戦略ボードの先生方と連携して、知事を補佐して参りました。

今また、感染再拡大に備えた医療体制の確保が喫緊の課題となっております。医療現場の視点を大切にしながら、皆様と連携しながら感染症に立ち向かっていきたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

**【知事】**

ありがとうございます。

今後とも医療現場の状況、そして課題などについてご助言、ご提言をお願いを申し上げます。

そしてまた、猪口先生、大曲先生、西田先生につきましても、もう本当にこれまでも色々ご協力、ありがとうございます。引き続きのお力添え、よろしくお願い申し上げます。

今日のモニタリング会議、様々ご報告ありましたように、感染は再拡大をいたしております。一層警戒をしていく必要がございます。

また、熱中症にですね、留意しながら、「感染しない、感染させない」、その行動を改めて徹底をして、感染を抑え込んで参りましょう。

よろしくお願いいたします。

**【危機管理監】**

ありがとうございました。

以上をもちまして、第91回東京都新型コロナウイルス感染症モニタリング会議を終了いたします。

なお、次回の会議日程については別途お知らせをいたします。

ありがとうございました。